霊仙山道迷い（2017年4月）

夕暮れ間近、山道から林道に出るとそのまま下ってしまった。30分歩いたところで道迷いに気づき来た道を戻った。

解説

登山道と並行するかたちで林道が走っている。部分的には遠回りになるのですが、これを辿れば迷いやすい山中を避け、安全かつアップダウンのない楽な帰途になるわけです。くたくたに疲れていたわたしは迷わず林道を歩くことに決定、以降だらだらとのんびり歩いていたのでした。

「合流」の部分、最終的にはここからさらに東へ進んで登山口に戻ってくるのですが、林道はあらぬ方向、つまり南へどんどん続いております。このときのわたしは予備知識ゼロ、かつ疲労困憊しており、まともな判断力を欠いてました。

本来であれば「取りつき点」の地点で登山道にシフトしなければいけないところを、どうせこのまま歩けば合流の場所につく、**大丈夫大丈夫、一休み一休みなどと、某僧侶のような思考回路**でそのまま林道を直進、30分も歩いたあたりでちっとも合流点に着かないことに気づいたのでした。（HP参照）

山道から一旦林道に出てしまうとそのまま林道を歩いてしまいがち。特に疲労しているときは、あまり考えずに歩いていることが多い、この事例は、①疲労、②何も考えず歩く、③日暮れ間近が重なって起きている。道迷いとしては、軽微な事例だが山の中でもあながち起きてしまうパターンでもある。

林道に出て、次に山に入るポイントはとても重要な特徴物として、先読みをしたい。